

# 2015 年度 センター試験 生物 I (旧課程) (本試験) 分析

## 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：5 題	解答数：31 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化    ○ やや難化	○ 変化なし    ● やや易化    ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし    ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評                  図・グラフの数が減り、問題文の文章も短くなり、問題頁数が昨年度の 29 頁から 25 頁へと減少した。中には実験や観察の結果から考察を求める問題も含まれていたが、全体として昨年と比べると取り組みやすかったと言える。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	A…細胞 B…発生・酵素など	20 点	A は基本的な知識が問われた問題であった。 B は発生・酵素・呼吸など幅広い範囲の知識が必要とされる問題であった。
第 2 問	A…発生 B…生殖	21 点	A は平易な問題であった。 B は過去に出題された被子植物の胚のうに関する問題とよく似ていたが、胚のうではなく花粉の形成を題材としていた。
第 3 問	A…同義遺伝子 B…条件遺伝子	19 点	A はナズナの同義遺伝子に関する問題であった。問 3 では、指示されている個体の遺伝子型について見落としなく整理する必要がある。 B は過去にも同様の出題がある平易な問題であった。
第 4 問	A…ホルモンと自律神経 B…動物の行動	21 点	A は基本的な知識が問われた問題であった。 B は実験の結果を考察させる問題であったが、グラフの読み取りは容易であったと思われる。
第 5 問	A…植物ホルモン B…光合成	19 点	A の植物ホルモンについての問題は、教科書に記載のあるオーキシンの実験と図は似ているものの、教科書のように幼葉鞘を用いてはおらず、本問では根を用いていることに注意したい。 B は光合成速度が「見かけの光合成速度」とは異なることに注意したい。